

# 新日本製鐵株式會社 東京製造所

鋼管事業部 東京製造所 鋼管工場

小谷 浩生 (2008年入社、機械工学科)

設備・操業・品質まで幅広い見識を持つ  
“マルチな鋼管技術屋”を目指す



大学時代、多彩な要素技術で構成される人工衛星の制御装置の設計を経験し、チームで一つのことを地道に成し遂げる面白さを知った。採用担当者の話を聞き、新日鉄にはコミュニケーション能力の高さやチームをまとめる力を発揮できる土壌があることに魅かれた。

「家電や自動車、重機など産業界すべての原点といえる鉄の仕事にチームプレーで取り組むのはやりがいがあるだろうと思いました。現在取り組んでいる操業技術の業務は、現場スタッフや本社の設備技術部門など関係者と対話しながら、制御・機械・操業条件などの要素技術を最適にまとめる仕事。自分の持ち味が活かしていると感じています」

入社後、君津製鉄所第4高炉の三交代研修を経験して鉄づくりの根源を体感し、その後、同所の鍛接管工場に配属された。ターニングポイントとなったのは、鍛接管の新規市場開拓を狙って開発された「段付鋼管」※の安定製造検討。オンラインで鋼管に安定的に規則的な溝を付ける新設備の導入を検討したが、新たに大きな設備を導入するのではなく、既存設備の操業条件を精査し、既存設備の能力を最大限引き出すことで莫大な投資を回避することができた。そして昨秋、その実績を横展開する使命を担って東京製造所に異動した。

「この経験は大きな自信につながり、机上の計算で設計の精緻さを求めるのではなく、外乱も考慮した最適なオーダー感を持つことの大切さを学びました。鋼管技術屋としての夢は、現在は国内(東京製造所)だけで生産しているシームレス鋼管(目無鋼管)について、初の海外ミルを現地へ赴いて立ち上げることです」



鋼管の検査を行う現場スタッフと



※ 段付鋼管：2005年に新日鉄が開発。土木・建築向け鋼管で、主に住宅基礎に挿入する芯材として使われる。セメントや土壌と鋼材を一体化させることで高強度の基礎を形成できる。